



大切な時 光り輝く

「働き方改革だより」の発行にあたって

「働き方改革」という言葉が世に出てから数年たちます。今更ながらですが、この「働き方改革」は令和元年4月1日に施行され、業種・職種・地域・企業規模問わずさまざまな企業が働き方改革に着手するようになりました。内容としては、「長時間労働の是正」「正規・非正規間の格差解消」「多様で柔軟な働き方の実現」の3つの柱を意識した改革が提唱されています。

長野県教育委員会では、平成29年11月に「学校における働き方改革推進のための基本方針」を策定し、市町村教育委員会等との連携を図りながら、取組を推進してきています。この基本方針では、次のように目標が定められています。

すべての公立小中学校、すべての授業で、質の高い授業を実現するために、学校と教員が担うべき業務を明確にし、分業化、効率化を進め、長時間勤務という働き方を改善します。

具体的な取組として、さらに以下の3点が示されています。

- (1) 学校・教員が担うべき業務を明確にし、業務の削減や分業化、協業化を進めます。
- (2) 学校・教員が担うべき業務の効率化、合理化を進めます。
- (3) 「勤務時間」を意識した働き方を進めます。

以上を受けて、松本市教育委員会としてもこれまでに以下のような取組を進めてきました。

- (1) 学校業務の協業化・分業化・外部化・システム化による業務の削減
 - ア 統合型公務支援システム(C4th)の導入
 - イ 保護者の利便性向上や教職員の業務負担軽減策
 - ・ Home & School の導入
 - ・ 給食費の公会計化
 - ・ 市内全校への教員業務支援員の配置
- (2) 家庭・地域・関係機関・企業等との連携・協働体制の構築
 - ア 地域スポーツ・文化環境整備
 - ・ 中学校部活動の地域クラブ活動への移行を見据えた協議会の立ち上げや総括コーディネーターの設置
 - イ 地域との連携
 - ・ 国型コミュニティスクールの段階的導入(令和5年度は、大野川小中学校)
 - ・ 小規模特認校制度や松本デュアルスクール制度の制定
- (3) ワーク・エンゲイジメントの高い職場づくりとワーク・ライフ・バランスの実現
 - ア 働きやすい職場環境整備
 - ・ 「リーディングスクール matsumoto サポート事業」を中心として、各校が独自に工夫をしながら、意欲的に学校づくりを進めていける取組

松本市教育委員会では、今後も市立小中学校の先生方が、何より子どもたちと、保護者・地域の皆様と、そして同僚との大切な時間を共有し、光り輝くものとしていただけるよう、この「働き方改革だより」を発行していきます。各校の実践事例もできるだけふんだんに掲載していきますので、ぜひ参考にいただければと思います。

今回は、第1号ということで、発行のねらいや、松本市教育委員会のこれまでの取組み、直近の勤務時間の実態、各校の取組等を紹介させていただきました。各校では、2学期以降、先生方のやる気が高まり、さらに取組みが進みますよう参考にいただければ幸いです。

よろしくお祈りします。

市内小中学校の取組みから ～波田小学校～

全校児童約850人の波田小学校は学区が広く、250名以上の児童は上高地線で電車通学をしています。以前より、教職員の中では下校時刻を早めたいという願いはありましたが、電車の時刻が決まっていることから、日課の変更は「無理なこと」という認識がありました。

教職員の対話を通じて「目標」「方法」を共有する

教務主任を中心とした「校内推進チーム」が設置され、職員会議の15分間に「未来の教室タイム」と称して働き方について教職員が議論する時間が位置づけられました。「放課後30分の時間を生み出すために業務の中でやめてみることを探す」をテーマに議論を行った際には、様々な業務の見直し案や不要感が挙げられる中、日直の見回り方法や家庭学習、会議の設定、端末による欠席連絡などの試行が次々に行われました。そして、年度途中ではあったものの、保護者の理解と地域の協力のもと、1カ月ほどの試行期間を経て、日課を次のように変更し、40分間の余白を生み出しました。

変更前

変更後

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|------------|---|------------------------|----------------|--------------------|------------|
| 朝の登校 | 8:20～8:30 学級活動(朝の会) | | | | |
| | 8:30～8:45 読書 朝学習 国語 15分×3日＝45分 ※諸委員会(朝学習) | | | | |
| 登校 | (5分) (移動) | | | | |
| 1 | 8:50～9:35 1校時 | | | | |
| 登校 | (5分) (移動) | | | | |
| 2 | 9:40～10:25 2校時 | | | | |
| 休み時間 | 10:25～10:45 休み時間(20分) | | | | |
| 登校 | (5分) (移動) | | | | |
| 3 | 10:55～11:40 3校時 | | | | |
| 登校 | (5分) (移動) | | | | |
| 4 | 11:45～12:30 4校時 | | | | |
| 給食 | 12:30～13:30 給食・休憩(60分) | | | | |
| 清掃 | 13:35～13:50 清掃(15分) | | | | |
| 登校 | (10分) (移動・手洗い・うがい) | | | | |
| 5 | 14:00～14:45 5校時 | | | | |
| 登校 | (5分) (移動) | | | | |
| 6 | 14:50～15:35 | 6校時 | 6校時 | 6校時 | 6校時 |
| 子級登校(滞りの会) | 14:50～15:00 | 子級登校(滞りの会) 14:50～15:00 | 児童下校 15:10 | 児童下校 15:10 | 児童下校 15:10 |
| 子級登校 | 15:40～15:50 | 学級活動(滞りの会) | 学級活動(滞りの会) | 児童会クラブ 13:05～13:30 | 学級活動(滞りの会) |
| 児童下校 | 15:55 (水曜15:10) | 児童下校 15:55 | 職員会 学年会 15:30～ | 児童下校 15:55 | 学年会 職員連絡会 |



| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|------|--------------------------|------------------------|---------------------|---------------------|------------------------|
| 朝の登校 | 8:20～8:35 読書 8:25～8:35 | | 学級活動(朝の会) | | |
| 登校 | (5分) | | (移動) | | |
| 1 | 8:40～9:25 | | 1校時 | | |
| 登校 | (5分) | | (移動) | | |
| 2 | 9:30～10:15 | | 2校時 | | |
| 休み時間 | 10:15～10:30 休み時間・休憩(15分) | | | | |
| 登校 | (5分) (移動) | | | | |
| 3 | 10:35～11:20 | | 3校時 | | |
| 登校 | (5分) | | (移動) | | |
| 4 | 11:25～12:10 | | 4校時 | | |
| 給食 | 12:10～13:05 | | 給食・休憩(55分) | | |
| 登校 | (5分) | | (移動) | | |
| 清掃 | 13:10～13:20 | | 清掃(10分) | | |
| 登校 | (5分) | | (移動) | | |
| 5 | 13:25～14:10 | | 5校時 | | |
| 登校 | (5分) | | (移動) | | |
| 6 | 14:15～15:00 | 6校時 | 6校時 | 6校時 | 6校時 |
| 子級登校 | 14:15～14:20 | 子級登校(滞りの会) 14:15～14:20 | 児童会クラブ | 児童会クラブ | 子級登校(滞りの会) 14:25～15:10 |
| 登校 | (5分) | | (移動) | | (移動) |
| 子級登校 | 15:05～15:10 | 学級活動(滞りの会) | 学級活動(滞りの会) | 学級活動(滞りの会) | 学級活動(滞りの会) |
| 児童下校 | 15:15 | 児童下校 14:25 上り 15:15 | 児童下校 14:50 上り 15:30 | 児童下校 14:32 下り 15:11 | 児童下校 15:11 下り 15:51 |

10'
5'
5'
5'
10'
5'

下校時刻が5時間授業では14:25、6時間授業では15:15となり、高学年は水曜日でも6時間授業ができる

日課変更が学校にもたらしたものは

生み出された40分間により最も変わったことは、教職員が「対話」を通じて未来志向で学校をよりよいものとしていく「チーム力」が向上したこと、放課後の職員室の雰囲気です。以前と比べ、先生方は授業の話や、子どもたちの様子や成長の姿を自然と語り合うようになったとのことです。

本年度の波田小学校は、「子ども理解」を重点に据え、多様性を包み込む授業づくりのための職員研修の充実、学年教科会で子どもにとって実際の教育課程が適切かどうかを検討しさらに見定めています。

取組みのポイント

- ☞ 「30分の時間を生み出す」等の具体的な目標を設定することで、業務に係る時間的費用を正しく評価できるようにしていること。
- ☞ 現在の働き方を「確認」して「問題点を共有」し、「解決策を実行」して「振り返る」サイクルを高速で回していること